**＜2回目のお話＞人とは、何者なのでしょう**

◆**代表者による祈り**

◆**分かち合い**

イエス様を信じる前は、どんな目的を持って生きていましたか？また、人には霊があるということを信じていましたか？自分が考えていたことを分かち合って下さい。

◆**御言葉を開いてみましょう**

創世記1:27-28

◆**御言葉を知る**

私たちは一生の間、多くの人々と関係を結びながら生きていきます。従って、人間がどのような存在かを正しく知れば、私たちはこの世でよりよい人間関係を持つことができ、もっと意味のある、素晴らしい人生を生きることができます。人間はどのような存在であり、人間がこの世に生きる目的とは何でしょうか。

**1．人間を創造された**

人間は長い歴史の中、自分たちはどこから来て、自分たちがこの世に生きる目的は何で、死んだ後自分たちがどうなるかについて絶え間なく質問してきました。しかし、人間は自らの力でこれらすべての質問に対する答えを見つけられませんでした。なぜなら、人間を始めとする万物の起源と目的、そして終わりに関しては人間の知恵では知りえず、ただ神様の御言葉を通してのみ知ることができるからです。

なら、神様の御言葉が記録された聖書は、人間の起源について何と言っているでしょうか。聖書は、神様が人間を創られたと話しています。「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」（創世記1:27）。人間の起源は神様です。人間は偶然の産物ではなく、この世界の何らかの物質が漸進的に発展した結果でもありません。人間は、万物を創造され、統治される神様の被造物です。

神様は人間を創造されると同時に、人間に人生の目的を与えられました。聖書によると、神様が人間に下さった人生の目的は、神様を喜び、栄誉を宣べ伝えることです（詩篇73:25、イザヤ43:21）。コリントⅠ10章31節は、「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。」と言っています。また、神様は人間に対して、生み、増え、この地を従わせるように言いました（創世記1:28）。人間はこの世において健康な社会を作り上げ、神様が造られた自然を保存しつつ世話しなければなりません。

**2．人間、神様のかたち**

神様は人間を「神のかたち」に創造されました。これは、神様が人間を神様に似た存在として造られたことを意味します。では、神様のかたちとして造られた人間は、どのような部分において神様に似ているのでしょうか。

第一に、人間は霊的な存在として造られたので、神様に似ています。聖書は、神様がちりで人間を造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれることで人が生きものとなったと言っています（創世記2:7）。それで、人間は感覚で経験できる物質世界に生きながらも、霊的世界におられる神様と交わりを持つことができます。さらに、神様が人間を神様と交わりを持てる霊的存在として造られた事実は、人間に対する神様の無限の愛を表します。

第二に、人間は道徳的な存在として造られたので、神様に似ています。神様は正しい方であり、善悪を裁かれます（伝道者12:14）。人間は神様のこのような属性を持っていて、善と悪を分別する力があります。それゆえ、世界のどこを訪ねても、人間が社会を成している所では、その社会だけの倫理と伝統、法が存在します。さらに、人間の道徳的習性により、人類は世代と地域を超え、愛、平和、自由、平等などの普遍的価値を追求します。

第三に、人間は知性をもった存在として造られたので、神様に似ています。全知なる神様はすべてのことをご存じです。人間は神様のこのような属性に似て、知性を持っています。人間は知的能力を通して神様が創造された世界の原理を理解し、人間にやってくる様々な問題、すなわち衣食住の問題、疾病、自然災害などを克服します。さらには想像力を発揮して文化を花咲かせ、新しい文物を作り出します。

ところが、アダムとエバの堕落により、人間に与えられた神様のかたちは損なわれました。それで人間は神様と交わりを持てなくなり、善悪に関する人間の判断力は歪められ、人間の知性には欠陥が生じました。さらに残念なのは、人間は損なわれた神様のかたちを自分の力では回復できないということです。しかし、愛の神様は人間を救い、再び神様のかたちを回復させるため、独り子イエス・キリストをこの世に送られました。イエス・キリストは十字架に架けられ、死なれ、復活されたことで救いの御業を完成させ、人間に神様のかたちを回復する機会を下さいました。これからは、イエス・キリストを救い主として信じる者ならば誰でも、神様のかたちを回復して神様との交わりを持つことができ、神様のみ旨に従って判断し、主の下さる知恵と力を通して神様に栄光を帰しながら生きていくことができます。

**3．人間の本性の構造**

聖書は、人間の本性は霊、魂、肉の三要素であると言っています（ヘブル4:12）。この中の「霊」とは、神様と交わりを持つことができる人間の本性です。「魂」とは人間の人格であり、知性、感情、意志で構成されます。そして「肉」は人間の身体及び感覚器官を意味します。

人間の本性の三要素はすべて重要であり、互いに影響を与え合います。よって人間は霊、魂、肉すべてを大事にしなければなりません。何よりも人間は救われて、死んだ「霊」を起こし、神様との関係を回復しなければなりません。そして御言葉と祈りの生活を続けて、聖霊充満な霊的状態を維持しなければなりません。救われた後は、「魂」を神様のみ旨に従って開発していかなければなりません。創造的なことを考え、多様な経験を通して感性を磨き、感情をコントロールする方法を覚え、自分の意志で神様のみ旨に従う訓練をしなければなりません。さらに、「肉」を管理するため、適度な運動をしつつ、健康な食習慣を保ち、聖い生活を送らなければなりません。

人間の救いは全人的に行われます。ですからテサロニケⅠ5章23節は「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだが完全に守られますように。」と言っています。私たちはみんな、霊、魂、肉を聖く、健康に管理し、神様のご覧になるのにふさわしくならなければなりません。

◆**祈り**

1．神様を喜ばせ、栄光を帰す人生となるように祈りましょう。

2．周りの人々と自然を大事にしていけるように祈りましょう。

3．主に遭うその日まで、霊、魂、肉を聖く保って生きていけるように祈りましょう。

4．隣の人と祈りの課題を分かち合い、ともに祈りましょう。

以上の内容はヨイド純福音教会区域礼拝テキストから抜粋、追加、翻訳、再構成したものです。